

第 26 号

2018 年 11 月 30 日
(平成 30 年 11 月 30 日)

ソムリエの風

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行 特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会
広報グループ
〒630-8217
奈良市橋本町 3-1
きらっ都・奈良内

最終回「記紀万葉シリーズ講演会」を盛大に開催！



講師の平林章仁さん (11/3)

本年 11 月 3 日 (土)、大和高田さざんかホールで「第 10 回記紀万葉シリーズ講演会」を開催し、152 人 (会員 95 人、一般 57 人) のご参加をいただきました。午前中は各グループが市内の史跡などを探訪しました。シリーズ講演会は、これが最終回となりました。
(専務理事 鉄田 憲男)

奈良まほろばソムリエ大会



講演会場の様子 (同日)

この日は「奈良まほろばソムリエ大会」として、午前中は当会の各グループが工夫を凝らしたウォーキングなどを行い、午後は講演会場に集結するというもの。講演会では、講師の平林章仁さん (元龍谷大学教授) が「古代葛城の神話・神社・寺院」と題し、

記紀などに載る葛城地方の神話や伝承、古社寺などを詳しく紹介していただきました。

『奈良百寺巡礼』を執筆中



執筆説明会 (第 2 回) の様子 (11/3)

当会では現在、3 冊目の著書となる『お寺参りが楽しくなる 奈良百寺巡礼』を今年度中に発刊すべく準備を進めています。

来年は和辻哲郎著『古寺巡礼』の発刊から百周年、これを記念して刊行することになりました。

絶好の「アウトプット」の機会として現在、会員から募った約 40 人の書き手に分担して執筆していただいています。

橿原市で奈良検定 2 級対策講座



「華蓋」(今井町) で授業 (11/14)

11 月 14 日 (水) から全 3 回 (90 分授業を各 2 コマ) の予定で、橿原市観光ボランティアガイドの会のご希望者を対象に、検定 2 級受験対策講座を実施しています。

スキル向上のため、橿原市観光協会からご依頼いただいたもので、参加者の皆さんは、熱心に授業に聞き入っておられました。

体験学習プログラムを実施



御所御坊・円照寺を案内 (10/14)

皆さんも受講されたことのある「体験学習プログラム」(奈良商工会議所主催)、今年度は奈良町、御所、桜井、王寺の 4 コースを受託しました。

11 月にはすべてのコースを完了、お天気にも恵まれ、楽しく奈良大和路を学びました。



王寺町・片岡神社を案内 (11/17)

南青さんが真打昇進、南龍襲名

当会会員の講談師・旭堂南青さんが11月10日(土)、真打に昇進、「旭堂南龍」を襲名されました、おめでとうございます。

同日開催された講談会・祝賀会には、当会会員を含むたくさんのファンが駆けつけました。

なお南龍さんは6月24日(日)、奈良市長からの委嘱により「奈良市観光大使」に就任されました。



奈良市観光大使の委嘱式(6/24)

近鉄の歴史をテーマに自主勉強会



近鉄を熱く語る武部講師(11/18)

啓発グループが全会員向けに実施する自主勉強会、11月と12月のテーマは近鉄の歴史です。講師は鉄道史研究家の武部宏明さん。初回は鉄道ファンの会員を中心に、たくさんのご質問をいただきました。次回12月2日(日)は「近鉄奈良線の歴史」です。

1~3月はサンスクリット語をテーマに実施します。たくさんのお申込みをお待ちしています。

「ディスカバー！奈良」3月終了

多くの会員に執筆していただいた毎日新聞の連載が来年3月末で終了。新たな企画を募集中です！



片平あかねの即売会—いずれも山添村で

山里の幸 試食と即売

山添村東部の片平地区では、古くから根の先まで赤く細長いカブが栽培されています。それが大和野菜「片平あかね(アブラナ科ヒノナ)」です。他の場所でも輸入されて、このように赤くは育たないそうです。サラダに添えたり漬物にさせていただきます。甘酢漬けにすると根の芯まで鮮やかな赤色に染まり、食欲をそそります。

毎年11月23日の片平あかね祭りでは、「五月老人慰いの家」に地区の農家でとれた片平あかねを持ち寄り、品評会、即売会と地元産品を使った料理の試食会が開催されます。品評会で選ばれた優良品は出品者が持ち帰り、種をとって地区の全戸に配布し、各農家で大切に栽培されます。(奈良まほろばソムリエの会 専務理事 鉄田憲男)

奈良

すっきり ワイドに 地域面

シリーズ「奈良県の鉄道遺産」

吉野軽便鉄道



軽便鉄道吉野駅跡

近鉄吉野線は「壺阪山」駅の南で大きく西にカーブして JR「吉野口」駅を経て「下市口」駅に向かいます。国道のように芦原トンネルを抜けてまっすぐ南へ向かうのは、車と違い急勾配に弱い鉄道では難しく、それを避けるための長大トンネルを掘る技術もなかったためか、と最近まで思っていました。

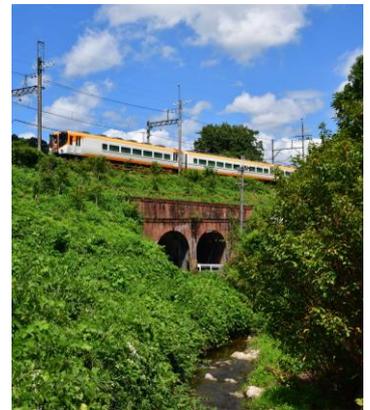
確かにそれも理由の一つではあると思いますが、この鉄道の開通の歴史を知るとそれだけでは無いことがわかります。

最初に開通したのは、大正元年(1912年)の国鉄の吉野口—吉野(現在の六田駅)間。軽便鉄道といっても天理軽便鉄道のような超狭軌(線路幅762mm)ではなく、国鉄と同じ1067mm。そのため桜の時期には国鉄湊町(現 JR 難波)駅から王寺駅を経て、吉野駅までの直通列車も運転されました。

その後、社名を吉野鉄道と改め、大正12年(1923年)吉野口—橿原神宮前、翌年には橿原神宮前—国鉄畷傍駅(小房線:現在は廃止)が開通。昭和3年(1928年)には、吉野川を渡り現吉野駅まで伸びて当初の吉野駅は「六田」と改称されました。

その翌年には大阪鉄道(現近鉄南

大阪線)と相互直通運転を開始、阿部野橋—吉野間が直通で結ばれる現在の形となりました。



薬水きょう橋

六田駅の東には、吉野軽便鉄道の終着駅だった当時のホーム跡などが残りますが駅構内のため基本的には立入禁止なので注意。途中の薬水駅の南には土木学会の「土木遺産」にも指定されているレンガ造りの「薬水拱橋」(きょうきょう:アーチ橋)が開通当時の姿のまま残ります。(小林 誠一)

シリーズ「うまいん奈良」

釜めし 玉や



当麻寺参道に建つ釜めし玉や

近鉄南大阪線の当麻寺駅から西へ歩いて約1キロ足らず、雄岳と雌岳が寄り添うように並ぶ二上山を仰ぎながら、細くゆるやかな坂道をたどるとやがて当麻寺の仁王門（東門）に突き当たります。参道の両側には、草餅や名産物を売る店が並び、その家並みがいかにも古くからの門前町の風

情を残しています。

当麻寺門前の角地に建つ「釜めし玉や」は江戸末期の旅籠、玉屋旅館を改装した食事処で、歴史を感じさせる玄関には登録有形文化財の札が掲げられています。正面二階の外壁に「松に鶴」の饅絵や西妻壁に屋号である「玉」の字を漆喰で立体的に成形するなど、装飾を凝らした意匠が往時を偲ばせます。

店内はゆったりと食事ができるテーブル席が設けられており、坪庭が眺められる落ち着いた雰囲気です。自慢のメニューはヤマトポーク角煮、大和牛の時雨煮や大和肉鶏の釜めしです。生米から炊くので待つこと約20分。火が消えたらさらに3分蒸らすことで

美味しさが増します。最後はだし茶漬けで頂くのもおすすめの食べ方です。真冬に彩りを添える寒牡丹も見頃を迎えます。自然にも歴史遺産にも恵まれた当麻の里歩きの際に立ち寄ってみたいお店です。

(道崎 美幸)

奈良県葛城市当麻 1242

TEL: 0745-48-5470

定休日: 毎週 月曜日



ヤマトポーク角煮釜めし

レアスポット

宇陀松山の徳源寺

近鉄榛原駅からバスで15分、西山バス停から北西に10分程歩くと、両脇を真っ赤な彼岸花に彩られた石段が見えてくる。静寂な山の中、別世界に迷い込んだ気がする。



彼岸花に彩られた石段

徳源寺は宇陀松山藩第2代藩主織田高長公が藩の菩提寺として建立した寺である。石段を上がると石畳の奥に、織田木瓜紋の掲げ

られた本堂が見えてくる。堂内には本像の釈迦如来像が祀られている。高長はこの寺を建立するにあたり、京都北野の信雄屋敷の寝殿とその唐門を移築した。『奈良県宇陀郡資料』には、「當時に於ける本郡寺院としては輪奐の美、風光の致をことごとし、感力の隆なる他に及ぶものなかりし」と称えられている。なお、昭和12年までであった唐門は現在、犬山市の有楽苑で大切に保管されている。

苔むした境内の一隅には、丹波佐吉のゆったりとおおらかな作風の布袋像が祀られている。さらに境内から南側に山道を登って行くと、織田信雄・高長・長頼・信武の4代の五輪塔がひっそりと並ぶ。(台風で道が崩れ、現在は通行不可)



布袋像

深い緑に包まれた静かな境内に身を置き、穏やかな笑顔をたたえた布袋像に対峙して、悠久の時の流れを感じてみませんか。

(松浦 文子)

次号は、ガイドグループの寺田麻美さんにバトンを渡します。お楽しみに。(バトンを引き継いで頂ける方は広報Gまでご連絡ください)

シリーズ「大和の伝統行事」

大神神社のにようどうまい繞道祭



火は3本の大松明に移され、三輪山麓の摂社などに巡拝に向かう(2018年1月1日午前2時15分頃)

桜井市の大神神社の繞道祭は御神火まつりとも呼ばれ、1年の始まりである元日の午前零時すぎに三輪山の禁足地で採火され、午前1時から古式に従い執り行われる伝統行事です。年の瀬・歳始めと重なり、境内は多くの参拝者で人・人・また人でごった返します。ちなみに「繞」とは「めぐる」という意味です。

大和年中行事の諸本によると、繞道祭は同神社の明和3年(1766年)の神事勤行日記に記されており、御神火を持って境内諸社などを巡ることから、今では御神火まつりとも言われ、国家・皇室の安泰と国民の幸福を祈って行われます。同神社によると、繞道祭が江戸中期以前のいつごろから始まったのかについては、記録がないため明確ではないといえます。

祭典では宮司祝詞の後、御神火は境内に用意された小松明に移され、拝殿前の庭で3本の大松明に火が継がれます。

同神社によると、大松明は松の薄板と竹で作られ、1本は長さ約3m、重さは約160kg。数人の氏子たちによって担がれ、神職と共に三輪山山麓に鎮座する摂社・末社計19社を巡拝します。



檜原神社では氏子たちによって後半の巡拝へ(同午前3時40分頃)

摂社の檜原神社では新しい大松明に御神火が受け継がれ、氏子たちによって一路、後半の巡拝に向かいます。御神火が拝戴(はいたい)所に移されると、待ちかねていた参拝者が持参の火縄やカイロに移し取り、それぞれの家に持ち帰って新年最初の灯明をともし際に使うそうです。

(保存継承グループ・橋詰 輝己)

“奈良まほろばソムリエの会の住所変更”のお知らせ！

9月1日から下記のとおり連絡事務所が変わりました。

事務所所在地：〒630-8217 奈良市橋本町3-1 きらっ都・奈良内

場所は、もちいどのセンター街三条通から入ってすぐです。

利用時間： 月・火・水・金・土の10時～18時

<編集後記>

台風の脅威にビクビクしていたのはついこの間のことかと思っていましたが、もう冬が近づいてきました。年が明けるといよいよ平成最後の年になります。ソムリエの風も次回が平成最後になると思います。

(広報G) 大谷・柏尾・梶尾・窪田・小林(誠)・雑賀・沢田・豊田(敏)・永井・中村・廣岡・二上・松森・吉川



特定非営利活動法人 奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8217 奈良市橋本町3-1 きらっ都・奈良内

ホームページ：<http://stomo.jp/>

メールアドレス：info@stomo.jp

つれづれ日記(ブログ)：<http://nara-stomo.seesaa.net/>



HPのQRコード